

2022年度 第2回 高大連携フォーラム 開催報告

「高大接続からみた探究活動」をテーマに以下のとおり開催した。

日 時：2023年3月6日（月）18：00～19：30

会 場：オンライン（ZOOM）

申込者数：72名

参加者数：44名

会員大学	13 大学 21 名
会員大学外	16 大学 18 名
高等学校	4 校 5 名
合計	44 名

プログラム：

18:00	開会挨拶 秋田 成司氏（大阪公立大学 副学長 / 高大連携部会推進委員会 委員長）
18:05	講演 山内 洋氏（大正大学 理事長付特別補佐（高大接続担当）） 君島 菜菜氏（大正大学 学習総合支援部 部長）
19:25	質疑応答
19:55	閉会挨拶

＜司会進行＞片桐 昌直氏（大阪教育大学 副学長 / 高大連携部会推進委員会 推進委員）

アンケート：別紙のとおり

演 題：「教職協働で育てる『高大接続』—探究学習支援から教育共創へ—

（概要）

大正大学が、3つのポリシーについて実質的な見直しを行った具体的な手法や、高大接続パートナーシッププロジェクト参加校の指向性別に対応したコンテンツの制作や展開方法が紹介された。高大を重層的に接続する本質的な支えは、互いの教育的顔（教育内容・教育姿勢）の親和性、信頼性であり、「教育支援」ではなく「教育共創」することで持続可能な高大接続に繋がるというお話があった。

主な質疑応答：

Q: スクールポリシーに繋がる探究学習を行うことは難しいと考えるが、高校の状況をどのように把握されているか。

A: スクールポリシーを意識した探究学習を展開されている高校では、学びが整理されており、教員間で円滑に対話されているように思う。

Q: 3つのポリシーを教職協働で策定されてから、教員の理解が深まったか。

A: 教員が主体的に策定に関わったことから、3つのポリシーを常に意識している。毎年の自己評価報告会は、教員がカリキュラムと3つのポリシーと照合を行い、FDと一体化して取り組んでいる。

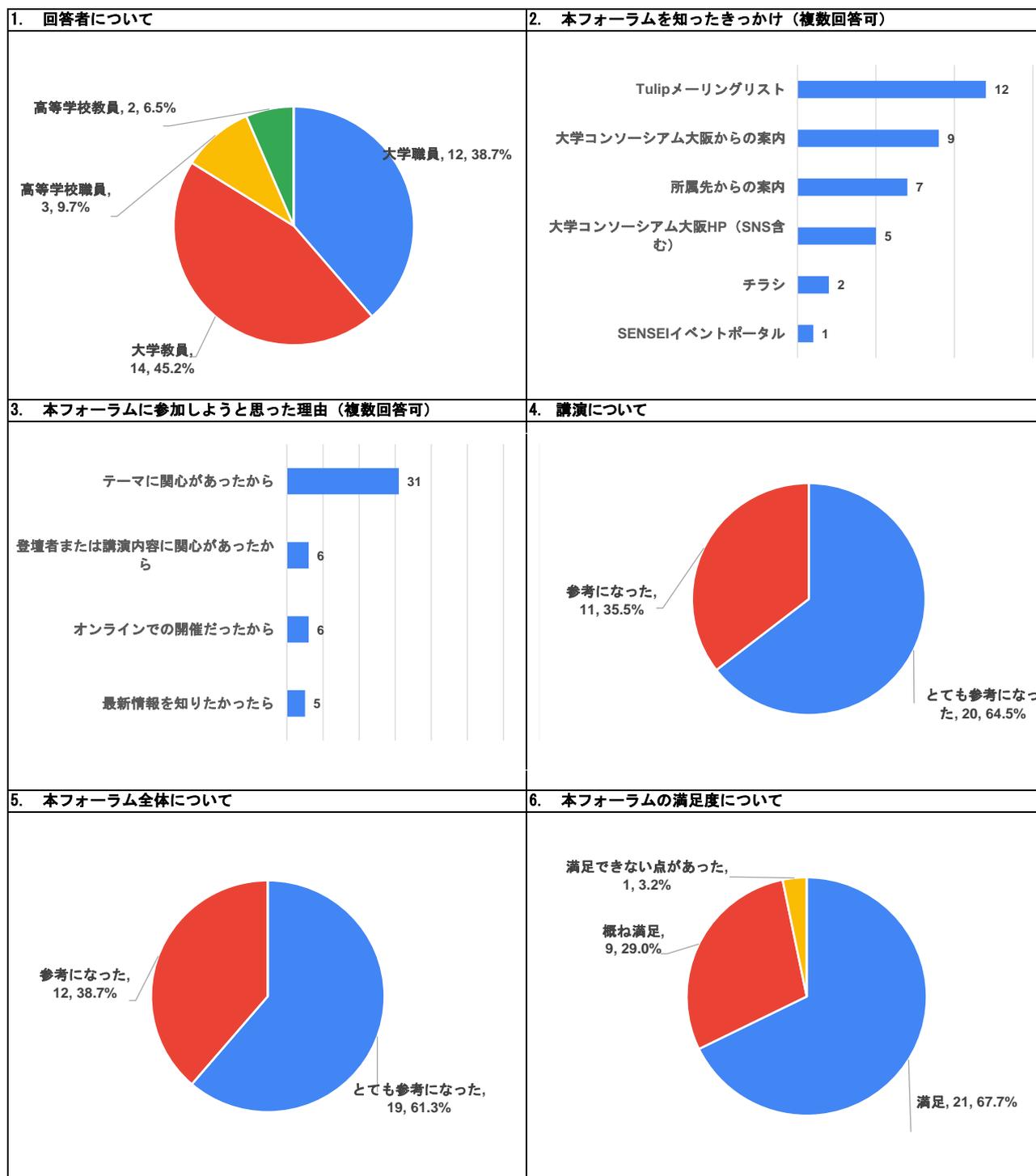
以上



フォーラムの様子

◆2022年度 第2回 高大連携フォーラム 参加者アンケート結果◆

参加者44名 回答件数31件 回答率70.5%



7. 6.にて回答した理由

<満足とした理由>

- ・ これから、我々が何を考えなければならないかがよく分かったから。
- ・ 高大連携の実例を伺えたこと。
- ・ 事例紹介だけでなく、課題についても知れたため。
- ・ 3つのポリシーについては、高校でも策定が求められ始めているため、大学での先行事例はとても参考になりました。同様に、大学の先生が伝えてくださる探究指導についても、サイクルの過程が構造的になっていて参考になりました。
- ・ 具体的な取り組み内容と成果についてのお話が聞けたから。
- ・ 実例を分かりやすく説明していただいたから。
- ・ 探究学習による高大接続の具体的内容を知ることができたため。
- ・ 具体的な取り組み内容が示唆に富むものであった。
- ・ 参考になりました。

<概ね満足とした理由>

- ・ 他大学の取り組み事例が知れたため。
- ・ 高校の現場の状況が良くわかった。

<満足できない点があったとした理由>

- ・ 大正大学の高大連携の取り組み内容について、もう少し詳細な説明があればありがたいと思いました。

8. 講演に関する意見や感想

- ・ 詳しい実例、分かりやすい説明で参考になった。
- ・ 高大接続とは直接関係無いが、第1セクションのお話で、3ポリシーの見直しとして全教員を対象とした学生像調査に基づいて見直すというところに感銘を受けた。本学でも取り入れてもらいたい。
- ・ 大変分かりやすい説明であった。

9. 次回のフォーラムで取り上げてほしいテーマ

- ・ 専門職養成課程の公立大学の高大接続による探究学習の好事例
- ・ 数理データサイエンス関係の取り組みなど